

2026年度 第4回（9月）北辰テスト対策 予想問題 解答・解説

国語

1 問1（4点）

ウ

①「隣で見ていた祖父の手に目が留まり、僕は思わず黙り込んだ」の直後に根拠がある。

・「節くれ立って、あちこちに古い傷の痕がある、大きな手だった。六十年、木を削り続けてきた手だ」＝祖父の積み重ねた年月への思い

・続けて「かばんの中の進路希望調査票を、ふいに思い出した。第一志望の欄は、まだ空欄のままだった」＝祖父の手が、湊自身の進路への思いと直結している

・ウ「祖父の手を前にして、自分の進路への思いが呼び起こされ、すぐには言葉にできない思いを抱えている」が正答

・ア「職人の仕事の危険さ」「不安」は本文にない（傷痕の描写はあるが危険への不安には結びついていない）

・イ「恥ずかしくて直視できない」は因果が逆（黙り込んだのは手に見入ったからであり、目をそらしたのではない）

・エ「祖父が悩みを見抜いている」は本文にない（祖父は手元を見たまま椅子の納品に誘っただけ）

採点ポイント：傍線部直後の「手」の描写→「調査票」への連想、という心の流れを捉えているか。

1 問2（4点）

イ

②「胸の奥が熱くなるのを感じていた」の根拠は前後の二か所。

・直前の場面: おばあさんが「立ち上がる時、膝が痛くないよ」と「子どもみたいに笑った」＝祖父の椅子が使う人の暮らしを実際に変えた瞬間

・直後の一文: 「椅子が、ただの椅子ではなくなる瞬間を、僕は初めて見たのだと思った」

・イ「椅子が使う人の暮らしを変える力を持つことを実感し、心を動かされている」が正答

・ア「誇らしくてたまらない」は強度過剰で、「胸の奥が熱くなる」感動の質と合わない

・ウ「自分にも手助けを」は本文にない

・エ「到底追いつけないと圧倒」は因果が逆（感動であって挫折感ではない）

採点ポイント：直後の「ただの椅子ではなくなる瞬間」という言い換えと結びつけられているか。

1 問3 (6点)

(例) 祖父のように、使う人の暮らしの中で完成する道具を自分の手で作りたい (33字)

正答例:

- ・(例1) 祖父のように、使う人の暮らしの中で完成する道具を自分の手で作りたい (33字)
- ・(例2) 使う人の暮らしの中で初めて完成するような道具を、自分も作りたい (31字)
- ・(例3) 人の暮らしを変える椅子のような道具を、自分の手で作りたい (28字)

根拠: 祖父の言葉「工房で出来上がるんじゃない。使う人の暮らしの中で、初めて完成する」+「その言葉を何度も頭の中で繰り返した」→その夜に第一志望を記入、という流れ。

採点基準:

| 要素 | 配点内訳 | 判定基準 |

| ---|---|---|

| ①「暮らし」が使えている | 1点 | 指定語必須 |

| ②「作りたい」が使えている | 1点 | 指定語必須 |

| ③「使う人の暮らしの中で完成する」という祖父の言葉の内容を踏まえている | 2点 | 「使う人の暮らし」への言及 |

| ④自分がその作り手になりたいという意志が示されている | 1点 | 「自分の手で」「自分も」等 |

| ⑤ 25~35字の字数を守っている | 1点 | 逸脱は減点 |

指定語の使用順序は問わない。

1 問4 (4点)

エ

④「心臓が大きく鳴っていたけれど、不思議と目はそらさずにいられた」。

- ・「心臓が大きく鳴っていた」=母に切り出す緊張
- ・「目はそらさずにいられた」=直前に自分で第一志望を書き込んだ(=決断を済ませた)からこそその落ち着き
- ・エ「緊張しながらも、自分で選んだ道への思いが定まっているため、母と正面から向き合おうとしている」が

正答

- ・ア「開き直り」は「心臓が大きく鳴っていた」と矛盾(緊張は消えていない)
- ・イ「祖父が味方になってくれる安心感」は本文にない(祖父は進路について直接何も言っていない)
- ・ウ「母の反応を気にする余裕がなくなっている」は本文にない・強度過剰

採点ポイント:「緊張」と「決意」が同居する複層的な心情を捉えているか。

1 問5 (5点)

ア

⑤「自分の手のひらを天井にかざしてみた」の直後に根拠が連続する。

- ・「鉋の柄が当たる場所に、小さくてかたい豆ができていた」=積み重ねの始まり
- ・「まだ、祖父の手には遠い」=道のりの遠さの自覚
- ・「それでも、この手はもう、行き先を知っている気がした」=進む道を選び取った決意と希望
- ・ア「道のりはまだ遠いと自覚しながらも、自分の進む道を自分で選び取ったことへの静かな決意と希望」が正

答

- ・イ「不安をつのらせている」は「行き先を知っている気がした」の前向きな結びと矛盾(因果が逆)
- ・ウ「すぐにでも職人として働きたい」は強度過剰(本文は静かな決意であり、はやる気持ちの描写はない)
- ・エ「母への感謝で胸がいっぱい」「眠れずにいる」は本文にない

採点ポイント:「まだ遠い」+「それでも行き先を知っている」という譲歩→決意の構造を読めているか。

1 問6 (5点)

イ・オ

- ・ア: 「祖父の手」(節くれ立った手) → 「湊の手」(豆ができた手) → 母の台詞「湊の手、おじいちゃんの手に似てきたね」と、「手」の描写が反復され、継承と決意を象徴している→適切
 - ・イ: 母が工房を継がなかったことは「母は祖父の一人娘だが、工房は継がず、街の会社で働いている」の一文で触れられるのみ。回想場面はなく、物語の中心でもない→不適切→正答
 - ・ウ: 「しゅっ、と薄い音がして」「夕方の光の中で、木くずが白く舞っていた」など、音と光の描写がある→適切
 - ・エ: 「やってみるか」「道具はな」「工房で出来上がるんじゃない。使う人の暮らしの中で、初めて完成する」など、祖父の言葉は短い言い切りで描かれている→適切
 - ・オ: 本文は「僕(湊)」の一人称視点で終始しており、祖父の視点からの語りは一切ない→不適切→正答
- 採点ポイント: イ・オの2つを両方選んで正答(5点)。過不足があれば0点(部分点なし)。

2 問1(1) (2点)

たた(える)

称える＝ほめて言い表す。

採点ポイント: 「しょう(する)」は不正解(「称する」との混同)。

2 問1(2) (2点)

えんかつ

円滑＝物事がすらすらと運ぶこと。

採点ポイント: 「えんこつ」等の誤読に注意。

2 問1(3) (2点)

貯蔵

採点ポイント: 「貯」の「貝」、「蔵」の草かんむりと中の形が採点対象。

2 問1(4) (2点)

快く

採点ポイント: 送りがな「く」を含めた「快く」で正答。「心良く」は不正解。

2 問2(1) (2点)

ア

「意見をサンコウにする」＝参考。ア参拝(参) ✓ / イ賛成(賛) / ウ決算(算) / エ山脈(山)。すべて「サン」と読むが、「参考」と同じ漢字を含むのはアのみ。

採点ポイント: 同音の別漢字(賛/算/山)を音だけで選ばず、意味から書き分けられるか。

2 問2(2) (2点)

イ

「劇のハイヤク」＝配役。ア薬局(薬) / イ役割(役) ✓ / ウ翻訳(訳) / エ約束(約)。すべて「ヤク」と読むが、「配役」と同じ漢字を含むのはイのみ。

採点ポイント: 同音の別漢字(薬/訳/約)を音だけで選ばず、意味から書き分けられるか。

2 問3 (3点)

ア・ウ・カ

各語の品詞を整理する。

- ・ア 「ふと」＝副詞（用言「思い立って」を修飾）✓
- ・イ 「大きな」＝連体詞（体言「公園」を修飾。活用しない）
- ・ウ 「ゆっくり」＝副詞（用言「歩いて」を修飾）✓
- ・エ 「小さな」＝連体詞（体言「花」を修飾。活用しない）
- ・オ 「きれいな」＝形容動詞「きれいだ」の連体形（「きれいだ・きれいな」と活用する）
- ・カ 「もっと」＝副詞（連用修飾語「遠くまで」を修飾）✓

識別のカギ: 「大きな・小さな」は形容詞「大きい・小さい」と紛らわしいが、活用せず体言のみを修飾するため連体詞。「きれいな」は「きれいだ」と言い切れるため形容動詞。副詞は主に用言を修飾し、活用しない。

採点ポイント: ア・ウ・カの3つ全てを選んで正答 (3点)。過不足があれば0点 (部分点なし)。

2 問4 (3点)

イ

文節相互の関係の判別。

- ・ア 「兄と／弟が」＝並立の関係（対等に並ぶ）
- ・イ 「置いて／ある」＝補助の関係（「ある」が本来の意味を薄め、直前の文節に意味を添えている）→正答
- ・ウ 「白い／犬が」＝修飾・被修飾の関係（連体修飾）
- ・エ 「鳥が」→「飛ぶ」＝主語・述語の関係

採点ポイント: 補助の関係＝「～て（で）」＋補助動詞（いる・ある・みる・おく等）の型を見抜けるか。

2 問5 (3点)

エ

慣用句の使い方の正誤判定。

- ・ア 「顔が広い」＝知り合いが多い。「初対面の人と話すのが苦手」と矛盾する誤用
- ・イ 「腹を割る」＝本心を隠さず打ち明ける。「怒る」の意味ではないので誤用（「腹を立てる」との混同）
- ・ウ 「襟を正す」＝気持ちを引き締め、姿勢や態度を改める。衣服を実際に直す意味で使うのは誤用
- ・エ 「油を売る」＝むだ話などをして仕事や用事を怠ける。「帰りに寄り道して遅くなった」の文脈と一致→正答

採点ポイント: 慣用句の比喩的な意味を、文字どおりの意味や似た表現と区別できるか。

2 問6(1) (3点)

ウ

案内状の結び「どうぞお気をつけて [I]」。相手（地域の高齢者の方々）の「来る」動作を高める尊敬表現が必要。

- ・ア 「参ってください」＝「参る」は謙譲語。相手の動作に使うのは誤り
- ・イ 「来てください」＝敬意が不足し、目上の方への案内状にふさわしくない
- ・ウ 「お越しください」＝「お越しになる」（尊敬語）の依頼形で適切→正答
- ・エ 「お越しになられてください」＝「お越しになる」＋「られる」の二重敬語で誤り

採点ポイント: 謙譲語と尊敬語の使い分け、二重敬語の判別。

2 問6(2) (2点)

イ

Cさんは「Bさんの意見に賛成です。それに加えて、私たちの方からも何かお返しができるといい」と発言している。

- ・イ「前の人の意見に賛成の考えを示したうえで、それとは別の視点（教わる→こちらから披露する）から新たな提案を付け加えている」→正答
- ・ア「問題点を指摘」は事実と反する
- ・ウ「要点を整理して合意形成」は司会のAさんの役割
- ・エ「疑問点を質問」は事実と反する

採点ポイント：「賛成＋別視点の追加提案」という発言の構造を捉えているか。

2 問6(3) (2点)

エ

空欄Ⅱは「交流会の内容として [Ⅱ] という二つの案が出ています」という司会のまとめ。ここまでに出た内容の案は、Bさんの「昔の遊びを教わる」とCさんの「合唱を披露する」の二つ。

- ・エ「地域の方から昔の遊びを教わることと、こちらから合唱を披露すること」→正答
- ・ア 案内状の確認・当日の流れは「内容の案」ではなく今後の議題
- ・イ お手玉とけん玉は「昔の遊び」という一つの案の中の例示
- ・ウ 日程・会場はこの話し合いに出ていない

採点ポイント：司会のまとめ＝それまでの発言の正確な整理であることを見抜けるか。

3 問1 (4点)

イ

傍線①の直後の二文に理由が明示されている。

- ・「たぶん、私は道を歩いていたのではなく、矢印をなぞっていただけなのだろう。自分の頭で道を選ぶことをしなかった道のりは、記憶に残らないのだ」
- ・イ「矢印をなぞるように歩くだけで、自分の頭で道を選ぶことをしなかったから」＝本文とほぼ一致→正答
- ・ア「歩く速度が速すぎて」は本文にない
- ・ウ「情報が多すぎて」は本文にない
- ・エ「表示が実際の道と食い違って」は本文にない（アプリは正しく案内している）

採点ポイント：傍線部直後の筆者自身の分析を根拠にできているか。

3 問2 (4点)

ア・ウ・オ

「不便益」＝「不便であることが、かえって人に益をもたらす場合がある」(手間の過程で、その人だけの経験や偶然の出会いが生まれる)。

- ・ア 紙の辞書＝本文の例そのもの。「目当ての語の隣に並ぶ、思いがけない語に出会う」✓
- ・イ 自動翻訳＝「すぐに読める」便利さの例であり、不便益ではない
- ・ウ かまど炊飯＝本文の例そのもの。「炊飯器のボタンを押すだけでは知りようのない、火加減の難しさと炊きたての味を知る」✓
- ・エ 倍速再生＝効率(時間短縮)の例であり、不便益ではない
- ・オ 山道を歩く＝本文の例そのもの。「車で頂上まで行く人が決して出会わない、道ばたの花や風の変化に出会う」✓
- ・カ 検索＝「数秒でわかる」便利さの例であり、不便益ではない

採点ポイント: ア・ウ・オの3つ全てを選んで正答(4点)。過不足があれば0点(部分点なし)。イ・エ・カはいずれも「手間を取り除く」側の例であることが判別基準。

3 問3 (6点)

(例) 手間をかける過程は、その人だけの経験を生み出す、豊かさの源泉である (33字)

正答例:

- ・(例1) 手間をかける過程は、その人だけの経験を生み出す、豊かさの源泉である (33字)
- ・(例2) 手間はむだな時間ではなく、その人だけの経験が得られる機会である (31字)
- ・(例3) 手間をかけることで、他の人には得られない自分だけの経験が生まれる (32字)

根拠: 傍線②の直後「効率だけを求めるなら、手間は切り捨てるべきむだにすぎない。しかし、経験という尺度から見れば、手間は豊かさの源泉である」。

採点基準:

| 要素 | 配点内訳 | 判定基準 |

| ---|---|---|

| ①「手間」が使えている | 1点 | 指定語必須 |

| ②「経験」が使えている | 1点 | 指定語必須 |

| ③ 手間が「むだ・浪費ではない」という否定、または「豊かさ・価値を生む」という肯定が示されている | 2点 | 対比構造の把握 |

| ④ 経験が「その人だけのもの・自分だけのもの」である点が示されている | 1点 | 「その人だけ」の限定 |

| ⑤ 25～35字の字数を守っている | 1点 | 逸脱は減点 |

指定語の使用順序は問わない。

3 問4 (4点)

ア

③「最短距離の外側に広がっているもの」＝便利さ(＝目的までの最短距離)が切り捨てる「むだ」の中にあるもの。

・直後の段落:「歩くその過程で、私たちは町の表情を知り、季節を感じ、思いがけないものに出会う。それは……歩いた人だけのものになる」

- ・ア「目的とは直接関係がないが、手間をかける過程でこそ出会える経験や発見」→正答
- ・イ「より速く着ける近道」は「最短距離」の側の話で、比喻の向きが逆
- ・ウ「昔ながらの不便な生活様式」は本文にない(筆者は生活様式の話をしていない)
- ・エ「知られていない場所」は「外側」を地理的な意味に取り違えた字義的解釈

採点ポイント:「最短距離」＝効率、「外側」＝切り捨てられた過程、という比喻の対応を読めているか。

3 問5 (5点)

エ

「適切でないもの」を選ぶ問題。

- ・ア: 第1段落は地図アプリという身近な例からの導入→適切
- ・イ: 「私たちは便利さと引きかえに、何かを失ってははいないだろうか」「歩いてみてはどうだろう」など問いかけの文がある→適切
- ・ウ: 紙の辞書・山道・かまどの複数の具体例で「不便益」を説明している→適切
- ・エ: 筆者は「便利なものを捨てて不便な生活に戻るべきだと言いたいのではない」と明言しており、最終段落の主張も「便利さを使いこなしながら、あえて不便を選ぶ目を持つこと」。「便利なものを捨てるべきだという主張」は本文と正反対→不適切→正答

採点ポイント: 筆者の「便利さの全否定ではない」という留保（譲歩段落）を読み落としていないか。

3 問6 (5点)

イ

本文全体の主旨:

- ・便利さ＝目的への最短距離／手間＝その人だけの経験が生まれる場所
- ・便利さを否定するのではなく、「最短距離の外側」の存在を忘れないことが大切
- ・結論: 「便利さを使いこなしながら、あえて不便を選ぶ目を持つこと。それが……知恵なのだ」
- ・イ「便利さを活用しつつも、手間の中でしか得られない経験の価値を知り、ときには不便を自分で選ぶことが大切」＝結論と一致→正答
- ・ア「便利な道具を減らしていくべき」は筆者が明確に否定した立場（強度過剰）
- ・ウ「学習の効果が高いことが証明されている」は本文にない（効果の証明の話はしていない）
- ・エ「地図アプリがなくても目的地に着ける力」は本文にない（目的達成能力の話ではなく経験の話）

採点ポイント: 「便利と不便の使い分けを自分で選ぶ」という筆者の均衡のとれた立場を捉えているか。

4 問1 (4点)

あらそえる

「争へる」の「へ」は語中・語尾のハ行。歴史的仮名遣いでは、語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は現代仮名遣いで「わ・い・う・え・お」に直す。

- ・争（あらそ）へる → あらそえる

採点ポイント: すべてひらがなで「あらそえる」と書けて正答。「あらそへる」（直し忘れ）、「あらそうえる」等は不正解。漢字交じりの解答も設問の指示（すべてひらがな）に反するため不正解。

4 問2 (4点)

ウ

「またかくのごとし」＝「また、このようなものである」。「かく（このよう）」が指すのは直前の二文。

- ・「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」＝川は流れ続けるが、水は入れ替わっている
- ・「よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」＝泡は消えてはでき、長くとどまらない
- ・ウ「川の流れや水の泡と同じように、絶えず入れ替わり続けて、もとのままではない」→正答
- ・ア「はなやかで美しい」は「たましきの都」の形容であり、たとえの内容ではない
- ・イ「いつまでも絶えることなく続いていく」は因果が逆（「絶えず」は流れ全体の話で、個々の水・泡・人・家はとどまらないというのが主旨）
- ・エ「水害によって失われやすい」は本文にない

採点ポイント：「流れ（全体）は続くが、水（個々）は入れ替わる」という対比を捉えているか。

4 問3 (4点)

(例) 絶えず入れ替わって、とどまることがない (19字)

正答例:

- ・(例1) 絶えず入れ替わって、とどまることがない (19字)
- ・(例2) 次々に入れ替わり、長くはとどまらない (18字)
- ・(例3) 消えては生まれ、長く残ることがない (17字)

根拠：「かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」「昔ありし家はまれなり」「いにしへ見し人は、二、三十人が中に、わづかにひとりふたりなり」「朝に死に、夕べに生まるるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける」。

採点基準:

| 要素 | 配点内訳 | 判定基準 |

| --- | --- | --- |

| ① 「入れ替わる（消えては生まれる・移り変わる）」の意が示されている | 2点 | 変化・交替の把握 |

| ② 「長くとどまらない（残らない）」の意が示されている | 1点 | 無常の把握 |

| ③ 現代語として自然で、10～20字の字数を守っている | 1点 | 古語の残存・字数逸脱は減点 |

4 問4 (4点)

ア

先生の助言「その後に続く部分まで読むことが大切」が指すのは、朝顔と露のたとえの後半。

- ・「残るといへども朝日に枯れぬ」＝露が落ちて花が残っても、朝日で枯れてしまう
- ・「消えずといへども夕べを待つことなし」＝花がしぼんで露が残っても、夕方までもたない
- ・つまり、先に消えるか後に消えるかの違いはあっても、どちらも長くはとどまれない
- ・ア「どちらが先に消えるかという違いはあっても、花も露も長くはとどまれないように、人も住まいもいつかは失われる」→正答
- ・イ「花は枯れずに残り続ける」は「朝日に枯れぬ」と正反対
- ・ウ「作り直せばいつまでも保てる」は本文にない（無常の主旨と正反対）
- ・エ「立派な家を建てることに意味がある」は本文にない（筆者の無常観と正反対）

採点ポイント：たとえの前半（どちらかが残る）だけでなく、後半（結局どちらも消える）まで読み切れているか。